

夢舞台 スマイル輝け

女子アイスホッケー日本代表



十勝3選手にエール

来年2月に韓国で開かれる平昌冬季五輪の女子アイスホッケー日本代表(スマイルジャパン)に十勝から3選手が選ばれ、地元関係者は喜びに沸いている。代表入りしたのは、フルタイムシステム御影グレッズのFW小野粧子選手(36)とGK近藤真衣選手(25)、帯広レディースのDF志賀葵選手(18)。3選手の活躍によるメダル獲得や、競技の盛り上がりを期待している。

祝賀看板早くも

清水・芽室

アイスホッケーの町・清水町では、町内で活動するグレッズから2選手が代表入り。グレッズの細田秀夫



会見後、笑顔で集合写真に収まる小野選手。金野和彦撮影



「限られたチャンスを生かしたい」と闘志を燃やす近藤選手



先輩たちから肩をもまれリラックスした表情を見せる志賀選手

小野選手の出場が決まり、祝福の看板を掲げる紀山の太田代表

清水町は年内にも、役場庁舎や町アイスアリーナなどに懸垂幕を掲げる。また競技振興のため、子どもたちの五輪派遣や御影地区でのパブリックビューイングも検討している。阿部一男町長(64)は「清水から冬季五輪選手が出たのは初めてで大変な声。最大限応援し、盛り上げたい」。

小野選手が勤務するそば店「紀山」芽室店では6日午後、店舗前に五輪出場を祝う看板を掲げた。太田博樹代表(48)は「引退から復活し、仕事をしながらホ

監督(61)は結成30年の節目にチームから初の五輪選手誕生を喜び、「アイスホッケーを盛り上げるためにも結果を出してほしい。チャンスはあるのでメダルを期待したい」と話す。グレッズの選手や関係者らは現地の応援を計画している。

ツケを続けた選手で尊敬する。ホッケー人生の集大成のつもりで思いきりやっつけてほしい」と話した。同店は8日から、200

食限定で「日の丸どろろそば」(500円、2種類)を販売。芽室産のナガイモを清水産の卵黄や梅などを組み合わせ、日本国旗をイメージした商品で、売り上げはすべて活動資金として小野選手に寄付する。

20日にも壮行会

帯三条高

「十勝3選手が五輪の舞台で日の丸を背負って戦う姿は、十勝のジュニアたちに計り知れないインパクトを与える」。帯広アイスホッケー連盟会長で、道アイスホッケー連盟副会長を務める山下司さん(62)は競技人口拡大の好機と捉える。さまざまな思いを込め、関係者は声援を送る。(池谷智仁、内形勝也、松田亜貴、小寺泰介)

チーム最年少で代表入りした帯広三条高3年の志賀選手にも注目が集まる。有力候補だった妹の紅音選手(帯広三条高2年)は惜しくも代表を逃したが、姉妹が所属する帯広レディースの大道弘樹監督(56)は、チームで守備の要として活躍する2人のこれまでの奮闘をたたえる。志賀選手には「自信と誇りを持ち、自分よりも年下の選手たちに目標とされるようなプレー